

平成20年度 12月分NGO相談員事業従事報告書2

●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

大学生による各地での活発な活動が多くなっており、NGO相談員としての出張サービスやアドバイザー的な依頼も増えてきている。本格的に途上国支援に取り組みたいという学生団体などもあり、地域発の国際協力の活性化として期待できる動きである。一方で既存のNGO活動は、地域社会の経済状況もあり長い間停滞気味である。このような団体では、世代交代が進んでいないケースも多い。活発な若い世代が、既存の団体と連携できるような機会も作っていききたい。

●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい)。

| | |
|--------|---|
| 1 | 難民てかっこいいという広告表現について |
| 相談内容 | UNHCRが、「難民てかっこいい」という広報を行っている。そのことについてどう思うか。 |
| 対応内容 | 事実なら、残念なことである。意外性で人々の注目を集めたいという気持ちがわかるし、効果を得たかもしれないが、ファッション業界ではないので、非常識な表現だと思うし、不快に思う人も少なくないだろう。当事者はもちろん不快に感じるだろう。「飢餓はステキ」「戦争はハッピー」というコピーがあったら、逆にどう思うか？ 私たちも注意していきたい。 |
| 特筆した理由 | 年々、国際援助機関だけでなく、NGOの広報も派手になってきている感がある。意外性は広告の手法としてはもちろんいいことだが、常識の範囲を逸脱しないよう注意が必要と感じ、事例として挙げた。 |

| | |
|--------|--|
| 2 | 神道系団体の管理するビルの事務所を借りることについて |
| 相談内容 | 事務所の移転席について相談。みゆき会館という護国神社が管理しているビルに事務所移転の話が持ち上がっている。現在の事務所が入居しているビルが老朽化で取り壊されることになり、探していたところ、NPOに貸したいとの申し出が先方から持ち上がった。家賃も無料だというがどうしたらよいか。 |
| 対応内容 | 神道系の団体と国際協力団体とは価値観が相容れない部分も多い。将来的に、活動がその意見によってゆがめられたりすることがないとも言いきれない。また、外部からも、関連団体だと見られてしまう可能性も高い。支援者から敬遠されることも起こりうる可能性もあるので、避けた方が良くはないか。 |
| 特筆した理由 | 近年、これまで接点がなかった業界とNGOの連携や協力が増えており、国際協力の市民への普及や活動の充実にとって、有益な関係が築かれているケースも多い(企業とのCSR連携など)。一方で、他分野の関係者との連携ではトラブルが発生することもあり、慎重な対応が必要となる。外部団体との関係についてガイドラインを設けているNGOもあるがまだ少数であり、こういったケースについても注視していきたい。 |

| | |
|--------|---|
| 3 | 国際協力に必要な海外での体験について |
| 相談内容 | 大学生からの相談。国際活動に興味があり、いろいろと勉強をしていきたいと思っている。何か海外での経験をしたいたいと思っているが、どのような選択肢があるだろうか？ |
| 対応内容 | 先進国で学びたいのであれば、留学プログラムが短期、長期いろいろとあり、選択肢は広いのではないかと。開発途上国での経験であれば、NGOのスタディツアーやインターンシップという選択肢がある。国際協力の現場を見ることが出来、通常の旅行などよりも深い経験が出来る。多くのNGOが途上国での経験プログラムを提供しているが、まずは自分が何に興味があるのかをはっきりさせるのが良いのではないかと。 |
| 特筆した理由 | 海外旅行が手軽になり、留学・インターンシップ・スタディツアーなど、様々なプログラムが各所から提供されるようになって、多くの学生が海外経験をすることが以前より簡単になってきている。若い世代の国際活動への理解促進、人材育成の点から非常に有益である一方で、せっかくの現地経験を帰国後に活かせていないケースも多く見られる。こういった相談を通し、事前事後のサポートにも力を入れていきたい。 |